

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
自ら学び、友と伸びる、心豊かな子どもを育成する。 <めざす児童像> ・(か) 体をきたえる子 ・(もっ) 目標をもってがんばる子 ・(こ) 心やさしい子	○ 互いに認め合い、支え合う心をはぐくむ指導 ○ 主体的な学びで学力をつけ、友と学ぶ喜びをもたらす指導 ○ 健全な心と健康な体をはぐくむ指導

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 ○国語A、国語B、算数A、算数Bにおいて、正解率が県および全国の平均正答率を下回り、とりわけ国語B、算数Bの正答率が低い。 ○国語Aにおいて、漢字の読み書きは比較的良くできている。 ○国語Bにおいて、目的や条件におうじて記述する設問を苦手としている。考えた理由や根拠をまとめる力が低いのが課題である。 ○算数Aにおいて、「数量関係」については理解できている。割合の考え方や図形の位置関係やその考え方について課題が見られる。 ○算数Bにおいて、記述式の問題の正答率が低く、県及び全国平均との差も大きい。	【学習状況調査の結果】 ○「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と答えた児童の割合は県・全国平均と比べて10%以上高い。 ○「国語の勉強はすきですか」という設問に対して、どちらかといえば当てはまるを含めても、県・全国平均と比べて20%近く低い。 ○「国語の授業の内容はよく分かる」と答えた児童の割合が、県・全国平均と比べて20%以上低い。 ○「算数の授業で学習したことを活用できないか考えますか」という設問に対して、どちらかといえば当てはまるを含めても、県・全国平均と比べて20%近く低い。
---	---

成果	課題
○家庭学習の推進や保護者と連携してノーマディアデーなどを通して、学習する習慣が身についた児童が増えた。 ○計算ぐんぐん週間・漢字ぐんぐん週間での取り組みの結果、「数と計算」や「漢字の読み書き」は県・全国平均に近できた。 ○日頃の関心をもとに、発展的な学習として、ことわざや俳句など「伝統的な言語文化」に対する興味がある児童が多い。	○算数Bの活用が特に低い。算数Aの基礎に時間がかかり応用まで指導が行き届いていない。 ○文章の中から問題を読み取る力が弱い。イメージして図にするような力も弱い。 ○国語では、自分の考えや意見を筋道立てて書くことに苦手意識が強い。 ○「手紙の書き方」や目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読むことを苦手とする児童が多い。 ○算数では既習の問題の復習など、振り返りながら学習の積み上げをしていく必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○毎日の授業で書く力の育成	年度末まで	学習して分かったこと気が付いたことを、理由や重要語を含む論理的な文章に書く。	毎時間の授業での振り返りをノートに書かせ、学習内容の理解を深めるとともに表現する力をつける。					
○毎日の授業で活用の力の育成	年度末まで	授業で学習したことをもとに「テーマ」を絞り「学習の方法」に従って発展的な学習をする。	「喜びのある自主勉強ノート」の指導を通し、自ら学習プランを立て、見直しを持った勉強や知識の活用の力をつける。					
○朝自習等で基礎学力の定着化へ	年度末まで	既習の課題を復習し基礎学力をつける	朝自習の時間や授業の終わりの時間に「問題データベース」を使用して復習問題を解く。					

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中一貫の学力向上・授業研究の推進(①学力分析と考察②学習規律や授業づくりの視点の共有化③家庭学習あり方④読書指導) ○小中一貫の児童会生徒会活動(①あいさつ運動②地域クリーン作戦)	○家庭でテレビ等視聴時間やゲーム・スマホ等をする時間を少なくするために、保幼小中と地域と連携した取り組みとして、「ノーマディア週間」(減メディア週間)をPTAの重点施策として行う。